

そら

第2号

東近江の
いいとこ
いいひと
見つける本



そこら

contents

- 1 目次
- 2 水のある暮らしをたずねて
- 8 晴れた日には猪子山に登ろう
- 10 エクレレ 笑顔と美味しさをエクレアに詰めて
- 11 菜の花から、広がる、つながる「わ」
- 14 東近江で伝統を受け継ぐ ー 鋳物師 西堀淳さん ー
- 16 東近江のお茶あれこれ
- 20 西市辺裸まつり
- 22 ちくちく縫って 繕って ー 加藤華子さんに訊く布のある暮らし ー
- 24 [対談] 子育て いろいろあっていいよね
- 31 誰もが笑顔になれる場所「つどいの広場 えがお」
- 32 毎日が冒険 八日市☆冒険遊び場
- 34 おさとさんからの贈り物
- 37 図書館おすすめ 読んで出会う東近江
- 40 東近江 MAP

「そこら」と一緒に町を歩く。

いつもの町並みが
違う顔を見せてくれた。

水のある暮らしをたずねて

能登川



能登川地区は、昔から水が豊富な地域です。永源寺の山から流れ出て、伏流水となった水が再び能登川へと流れます。現在では、上下水道が整備され、以前ほど暮らしの中で水を身近に感じる機会が減りましたが、今も能登川地区に残る、「水とともにある暮らし」を見に、郷土の歴史に詳しい山本一博さん、能登川博物館学芸員の杉浦隆支さんと巡りました。

まずは、滋賀県を代表する地域ブランド「近江の麻」を伝えている「ファブリカ村」へ。北川陽子さんに、麻織物が水と深く関わっている理由を教えてくださいました。

ファブリカ村

上：織り機
中：北川陽子さん
と緋のストール
下：井戸水



ファブリカ村（北川織物工場）には昔から井戸があり、染めの作業をしていました。能登川地区は水が豊富で湿度が高く、乾燥が大敵である麻織物にとって作りやすい土地柄です。大切な仕上げの加工作業には今も井戸水が使われています。軽くて高価な品物だった近江の麻織物は、県外に売りに行く近江商人に、重要な商品として重宝されました。

近江の麻の魅力は「色彩が豊かなこと」。それは、職人が小さい頃からこの自然豊かな環境に育つことで、色使いのセンスが自然と身についているからだろう。滋賀県は全国的にも珍しく、絹、綿、麻の多様な繊維がそろっています。そのことから、滋賀の自然環境の良さが伝わります。

栗見出在家町



最後に向かったのは、愛知川が琵琶湖へとつながる場所、栗見出在家町。東近江の中でも一番琵琶湖に近い地域です。堤防沿いには能登川漁業協同組合があり、現在も水揚げが行われています。現在正組合員、準組合員合わせて33名の方で構成されており、12月からはじまるアユ漁をメインに、ホンモロコ、ニゴロブナなどの魚を採り、主に業者さんへ販売されています。昔は家で湖魚を調理する家庭が多く、たくさんの方の鮮魚屋さんが組合まで買い付けにいられていましたが、湖魚を食べる習慣も薄れ、取引業者さんも減ってしまっただけです。現在では漁に出るだけでなく、琵琶湖の魚を守る取り組みも行われています。組合では、ホンモロコの産卵の時期に合わせて、一定期間禁漁を行い、量を増やそうと努力され、成果が少しずつ出はじめてい

ます。また、魚離れを防ごうと、滋賀県水産課からの依頼を受け、地元の小学校に出向いて小学生にアユを実際に炊いてもらって食べる体験や、漁港案内をしてもらいます。子どもたちに琵琶湖への関心をもってもらうことで、湖魚の購買意欲を高め、漁師の存続に繋がればと考えておられます。

「おれたちは水の番人や」と組合長の伊関照男さん。「漁を行うことも大事だが、水を見ることも大事。昔は川から、田んぼへ、そして水路をつたって次の田へ、と水がよく見えた。今は上下水道の整備により、水が見えづらくなった。だからこそ、水の大切さ、琵琶湖の尊さ、湖魚のおいしさをこれからも伝えていきたい」とのこと。琵琶湖や魚に対する熱い想いが伝わってきました。

次に訪れたのは、伊庭町。ここは、昔ながらの水路が現存している貴重な地域です。「陣屋橋」は、その名の通り、江戸時代、伊庭陣屋があったところ。当時の石垣の一部がそのまま残っています。言い伝えでは鎌倉幕府の成立した建久年間に、近江守護職を任されていた佐々木氏の一族伊庭氏が建てた「伊庭城」とも言われています。澄んだ水路沿いには景観維持のため、地域の人たちによって色とりどりの花が植えられています。水の中にはきれいな水でしか育たない、水草の「みくり」や、蜜のエサになる貝の「カワニナ」がたくさん。ところどころにある水路へと続く「カワト」には、バケツや水遊びのおもちやが置かれ、生活用水として水路が今も使われていることが伝わります。元は舟に使っていた材料で、耐水性があり丈夫な舟板を外壁に貼っている家もありました。



上：舟板塀 中：常夜燈
下：道路を挟んで右の湖面より、
左の土地の方が若干低い

伊庭町



水路が巡る美しい町並み



みくり

湖の安全を守る「金刀比羅神社」では、安全を願って常夜燈が建っています。「琵琶湖から少し離れた位置に常夜燈があるのは、昔は琵琶湖と集落が水路までつながっていた証拠です」と杉浦さん。さらに琵琶湖に向かって進むと伊庭内湖が現れます。道をへだてて広がる大中の干拓地は、埋立てではなく、文字通り水を干上がらせて造られました。今でも干拓地の田畑は琵琶湖（伊庭内湖）の水を利用しながら作物づくりが行われています。昔から、水を活用して生活を営んできたことが分かります。





集落を歩くと、道路がまっすぐ整備されていることに気がつきます。江戸時代の新田開発により、計画的に造られたからです。昔は各家の裏口に水路があり、田舟でそれぞれの田んぼへ田植えや稲刈りに行っていました。現在水路はありませんが、石垣が残っていたり、家並が一直線にあることなど、名残を感じる事ができます。町並みからも水と深く関わって生活してきたことが分かりました。

人が生活していく中で、なくてはならない「水」。古くから豊かな水に恵まれた能登川地区では、今もきれいな水路が残し、豊富な水資源を利用した産業が息づいています。ですが、水は癒しや豊かさをもたらすだけではありません。ときに、水の近くに住むことで自然の厳しさに直面することがあります。伊庭町内には、明治昭和に起こった大洪水の浸水水位がわかる石碑や、浸水ラインを示す

表示が家の壁にありました。伊庭内湖の近くには、江戸時代、長命寺に行く途中、春の嵐により船が沈み、命を落とされた方の巡礼遭難供養碑もありました。そんな厳しさも優しさも受け入れて、人と自然が寄り添って生きてきたからこそ、今に続く能登川の風景があります。生活習慣が変化しても、そばを流れる水のせせらぎとともに、能登川の今、そしてこれからがゆつくりと育まれていきます。



上：玄関のある通り
下：元は水路だった通り



1755年西国三十三カ所巡礼者の巡礼遭難供養碑



明治29年大洪水碑。浸水ラインがわかります

ちよつと寄り道



近江の奇祭「伊庭の坂下し」に使用する神輿が格納されている「大濱神社」の「仁王堂」(滋賀県指定文化財)。仁王堂は、鎌倉時代のお寺で利用されていた大きな丸柱を再利用。拝殿の天井は木を格子状に組んで板を張った格天井ごうてんじょうという、豪華なつくりです。また、境内には「おはけ」という立柱崇拜の柱が。本殿を拝む習慣が根付く前の信仰形態を今も伝えています。

妙楽寺の境内には複数のお寺があり、古いお寺の在り方が残っています。まわりを堀で囲んでいるのも中世、勢力があった名残りと言われています。また、伊庭地区にはあまりお墓がなく、お盆の時けいには先祖の肖像を持ってお参りする「系けい図参り」のしきたりが残っています。



art×cafe×shop
ファブリカ村

麻織物の魅力だけではなく、ものづくりの魅力を発信できる、活気ある場を作りたい、と織物工場を利用して、2010年にオープン。現在では、麻製品の展示・販売だけでなく、地域でものづくりをされている作家さんの作品を展示したり、コンサートを行ったりと、地域の魅力や情報を発信する場にもなっています。作家さんの器でゆつくりと時間が過ごせるカフェもあります。

東近江市佐野町 657
北川織物工場内
☎ 0748-42-0380
土曜・日曜のみ営業
11:00 ~ 18:00



歌碑に励まされ…



どこまでもどこまでも
続くつらい階段…



磐座 (いわくら)
巨石がある神聖な場所



古墳！

ところが、中腹の石段から北向十一面観音を目指して登り始めると、小さな階段が思ったよりハード。登っても登っても上が見えません。ペースも遅くなり後ろの人にどんどん抜かれます。こんなにしんどいの私だけ？見回すと毎日登っているらしきお年寄りが。皆さん「こんにちは」とにこやかに挨拶。やっぱり私には山登りは無理！もうあかん、と思ったとき、ふと横に「急坂を息を切らして登りきて観音さまに会うぞ嬉しき」と歌碑が。まさに絶妙のタイミング。最後の力を振り絞って登ります。すると頂上が見えてきました！

山頂には社があり、奥に小さな十一面観音がおられます。地元の人々が毎日登ってお線香をあげておられ、丁寧に手入れをされているのが分かります。そして頂上からの見晴らしの素晴らしいこと！北に向かつて能登川の田んぼと干拓地、琵琶湖が広がります。空気が澄んでいけば対岸までくっきりと見えるとのこと。11月には北からやってくる鷹の渡りも見ることが出来ます。反対側は永源寺、鈴鹿の山並みが。鈴鹿からの伏流水がこの山で止められて回り込み、瓜生川になるそうです。この地形ならよく分かります。

運動不足の私にはハードな道のりでしたが、普通の人には何てことはないハイキング。現に私以外の7人は軽々と登っておりました。お百度参りをされる方や、運動のために登る妊婦さん、頂上にはたくさんさんの名前を記したノートがありました。皆さんも東近江の穴場スポット、猪子山に登ってみませんか。(Y)

おつかれさまでした！



頂上からの眺めは最高！美味しいコーヒーと麓で買ったエクレレさんのエクレアで一服



やさしいお顔の観音様

晴れた日には
猪子山に登ろう



湧き水で疲れを癒します



冬いちご



岩船社でお参り



船の形をした石

そこら1号でインタビューした、たくさんの方が、東近江のおすすめスポットに猪子山をあげていました。そんなに魅力的な山なら、一度登ってみようということになり、爽やかな秋晴れの日、総勢8人で出かけました。猪子山は標高268メートル、地元の人に愛される気軽に登れる山だそうです。小学校の時に伊吹山1377メートルに登って以来、二度と山登りはごめんだと思ってきましたが、これくらいならいけるかも。

能登川博物館の杉浦さんと、元芸員の山本さんの案内のもと、ふもとの鳥居に集合して颯爽とハイキング開始。道端には古墳がたくさんあり、入ってみることもできます。少しそれると苔むした巨大な磐座。あたりには冬いちごの実がなり、むかごもあり、紅葉もいまが盛り。なんて素晴らしいスポットなのでしょう。



菜の花から、広がる、つながる「わ」

東近江から全国へ、そして福島へ



一面の菜の花畑を見ると、つい足をとめてしまいませんか。黄色い可憐な花は、見る人の心を癒します。その「菜の花」でまちおこしをしているのが、愛東地区で「菜の花エコプロジェクト」に取り組むみなさんです。

昭和50年代の琵琶湖の赤潮発生とせつけん運動をきっかけに廃食油からバイオ燃料をつくる取り組みが広がった愛東地区。1998年、安心安全な食べものもエネルギーも地元で作ろう！と菜の花エコプロジェクトがたちあげられました。下中野営農組合協力のもと休耕田、転作の田を利用した菜の花づくりが本格的に始まりました。

最初は失敗続き。菜種は1日水に浸かってしまうと8割が育ちません。均等に種をまかなかったため茎が細くなったり、雑草が生えて種の選別が困難になることも。試行錯誤を繰り返しながら徐々に軌道に乗り始め、下中野町だけでなく百済寺本町、鯉江町など菜



Eclairer
エクレレ



東近江市垣見町 754

[月～土] 10:00～20:00 [日] 10:00～19:00

※いずれも売り切れ次第終了

☎ 0748-43-6225 水曜定休

右／西村俊さん 左／スタッフの方



にしむら しゅん
西村 俊さん
(エクレレ・パティシエ)

エクレレ 笑顔と美味しさをエクレアに詰めて

能登川地区にある、エクレアと焼き菓子のお店「エクレレ」。軽度の障がいを持つ人が、きちんとしたお給料をもらって、生きがいを感じながら働ける居場所を作ろうと、2014年に社会福祉法人蒲生野会さんがオープンされました。おしゃれな店内に入ると、長細くてスマートな色とりどりのエクレアがずらり。「おしゃれな女性が、自分のために買って帰りたいくなるものをつくりたい」という想いから、食べやすく、インパクトのある形になったそう。また、他の人とシェアして色んな味を楽しめるようにと、エクレアと一緒に木のナイフを付けてくれる心づかいも。

スタッフの方にお話を伺うと、

「作業は大変だが、エクレアやお菓子が売れていく様子が見えるのが嬉しい。それがやりがいにもつながるんです」とのこと。取材の日も平日にも関わらず、幅広い世代の方が、男女問わず買いに来られていました。一番人気の「チョコバナナ」味は、細かくカットしたバナナにひとつずつチョココレートをコーティングしてからエクレアにはさんでいるとのこと。こうした手間をおしえない、おいしさへのこだわりが人気の秘密です。エクレアを作り、販売し、お客様が喜んで買っていかれる様子を見て、自信につながる。障がいのある人もない人も共に成長しあえる素敵な空間がそこにはありました。

東近江のおすすめはどこと？

太郎坊さん

question

菜の花エコプロジェクトから生まれた東近江資源循環システム。

菜の花を植えることで CO2 が吸収され、収穫した菜種から、食用油と油かす肥料を生産。

更に使い終わった油はせっけんやバイオ燃料に生まれ変わります。

この循環サイクルが評価され、全国に菜の花エコプロジェクトが広がる要因となりました。



菜種油「菜ばかり」



菜種油「菜ばかり」は、あいとうマーガレットステーション以外でも、購入できる場所があります。他にも、粉せっけんや油かす肥料など活動から生まれた商品があります。詳しくは下記まで。

NPO法人 愛のまちエコ倶楽部

東近江市妹町 70 番地 (あいとうエコプラザ菜の花館)
☎ 0749-46-8100 FAX: 0749-46-8288
火曜、祝日定休

道の駅 あいとうマーガレットステーション

あいとう直売館

東近江市妹町 184-1
☎ 0749-46-1110
5~11月無休 12~4月火曜定休

販売スタッフのみなさん

スタッフも愛用しています！
地元の野菜と相性バツグン。
愛東生まれの菜種油
「菜ばかり」をぜひ買いに来てね

種の栽培は地域に広がっていきました。こうして地域と行政がひとつになつて菜の花で地元を盛り上げる気運が高まる中、活動の拠点となる「あいとうエコプラザ菜の花館」が 2005 年に誕生し、より多くの菜種油が安定的に生産できるようになりました。

菜種を搾る魅力は、「無駄がない」こと。菜種の重さの 3 割は菜種油に、残りは、油かすとして良質の有機肥料になります。使用後の廃油は粉せっけんや BDF (バイオディーゼル燃料) として再利用されます。また、菜の花を植えることで、CO2 を吸収するだけでなく、休耕田等の有効利用になり、環境にも人にも優しい循環サイクルが確立されています。菜の花を地域づくりのきっかけにしたいと、現在では各都道府県に菜の花プロジェクトが存在。2015 年 4 月には、東近江市で第 15 回全国

▼ 福島での種まき

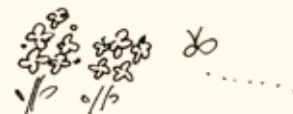


▼ BDF で動くカート



▲ あいとうエコプラザ 菜の花館

菜の花サミットが開催されます。各地から多くの方が集まり、共に学ぶ機会となります。さらに、東日本大震災以降、福島では菜の花を植える活動が行われており、毎年東近江市からも多くの方が参加しています。菜の花を植えることで、津波の影響を受け、塩害等で放置されていた農地の有効利用になっていきます。また、菜の花の咲き誇る様子は人々の心を癒してくれます。現在では、福島の高校生がデザインしたラベルの菜種油が販売されるまでになり、復興につながっています。子どもや孫の世代に、美しい琵琶湖を残したいという想いから、資源循環型社会のモデルとして活動を続けている菜の花エコプロジェクト。未来への想いはこれからも菜の花とともに広がっていきます。





→ 字の型は『打ち字』と言います。
細かな装飾や文字は後から付けます。



→ 装飾をつける部分は薄くしなくては
なりません。難しい技術が必要です。



↑ 700 年も前から受け継がれる技
術。会社に残る、大正時代の職人
たちの写真。



← 足元の土は、型として昔から何百
年も使われています。「使い捨てじゃ
ない。土は財産ですね」。

→ 師匠の奥田さん。黙々
と作業されていました。



question

東近江のおすすめはどこ？

湖東三山ですかね。この辺りの田んぼ
のある風景も好きです。

金壽堂

東近江市長町 273 ☎ 0749 - 45 - 0003

→ 梵鐘の上部『龍頭』の木型。
2つ型を取って合わせます。型と
土があればいくつでもできる。こ
の型も古くから使われているそう。



↓ 土ではなく特殊な砂ででき
た型。薬品を入れると固まり
ます。木型から型をとります。



↓ 鑄込み。材料の銅と錫を入れ、
溶かします。配合は企業秘密。



↑ 梵鐘は『外型』と『中子（中型）』の二つの型を
組み合わせ、その隙間に溶かした金属を流し込みま
す。「音を一番に考えて作っています。昔から伝統で
伝わっている、銅と錫の配合で音ができています」。



東近江で
伝統を受け継ぐ

金壽堂 西堀 淳 さん
にしほり あつし
さん



東近江で梵鐘が作られているのをご
存知ですか？湖東地区の長町にある金
壽堂では、釣鐘などの鑄物が作られて
います。鑄物に適した土があるという
ことで、かつてこの辺りでは鑄造業が
さかんでしたが、今では県内はもとよ
り全国的にも少なくなりました。

そうした中で鑄物師となった西堀淳さ
ん。会社に入ってから3年は、職人が作った
ものを仕上げる仕事をしていました。そ
の後、実際に鑄造をする職人になって1
年。驚いたのは「何もかもが手作業なん
です。（型に使う）土も練って乾かして
出来あがったら土を砕いて乾かして」。

梵鐘は、お寺などでよく見る2尺ほど
の大きさのものだと2、3カ月かけて制
作されます。準備も大変で、何トンもの
銅や錫などの材料を用意し、大きいもの
になると、吹く（型に金属を流しこむ）作
業に3、4人の人手が必要になります。「た

だ入れるだけじゃなくて、速く入れない
と。ゆっくり入れるとだめなんです」。金
属は1200〜1300度の適温で。ちょ
っとしたことが音や強度に影響します。

師匠は熟練の職人・奥田正治さん。「尊
敬できる師匠です。妥協することがない。
大変なのは、覚えること。人もいないで
すし。奥田さんの技を盗んで、自分一人
になっても困らんように必死で覚えてま
す。覚えることがばっかりですね」。

梵鐘の注文は年間でも少なく、他には
銅像や、祭りで使う祭鉦、仏堂の軒に吊
るされる鰐口など色々なものを作ってい
ます。今、会社の職人は西堀さんを含め
3人。入社時よりも少ないですが、西堀
さんは「ほんとにおもしろい仕事ですよ。
自分一人でもできるようになりたい
いですよね。『自分で作ったんやで』っ
て言えますし」。と梵鐘や鑄造の魅力を、
たくさん話してくださいました。



政所茶レン茶

若者の茶づくりによる
未来づくり
まんどころちゃ

其の1

まんどころちゃ
「政所茶」って？

「宇治は茶所、茶は政所」と詠われているように、全国に名の知れたお茶です。寒暖差があり、霧が発生しやすい政所は茶に適しており、栽培がすすめられました。香りがよく苦味の中にほのかな甘みがある政所茶は、品種化されていない在来種のお茶です。現在は担い手の減少などで、大変希少なお茶となっています。



6月上旬、政所茶の摘み取り作業の中に、若者の声が響きます。彼らは「政所茶レン茶」という名で滋賀県立大学生を中心に「お茶づくりを通して、地域の方とふれあい、地域の良さや課題に触れ、その解決策を探る」ことを目的として活動しています。

授業のフィールドワークで奥永源寺地域の政所町を訪れ、集落を歩く中で耕作放棄された茶畑を目にし、「私たちもお茶づくりをしてみたい」と地元の方に提案。責

任を持つて長期的に作業をするなら、と貴重な茶畑を借りることができました。農作業も初心者メンバーばかりでしたが、地元の方たちに教えてもらいながら、肥料入れや草取りから茶摘みまで1年を通して茶畑の作業を実践しています。また、製茶したお茶は、自分たちでパッケージデザインから袋詰めまで行い、県内外のイベントで販売しています。

若者の茶づくりから奥永源寺地域の未来づくりが始まっています。

茶レン茶一のお茶をお求めの方はメールまたはHPにてお問合せください！

question

東近江のおすすめはどこと？

(茶レン茶一のみなさん) 政所町の茶畑の風景

まんどころちゃ
政所茶レン茶一

問合せ 彦根市八坂町 2500
滋賀県立大学内

mail・mandokoro.challenger@gmail.com

HP・http://mandocorochallenge.wix.com/challenger



東近江のお茶
あれこれ



滋賀は日本茶の発祥の地であるとも言われ、お茶と古くから関わりがあります。東近江でも、奥永源寺地域の政所やその下流の愛東地域でお茶が栽培されています。

そこで今回は、今熱い東近江のお茶にまつわる人や場所をご紹介します。





「お煎茶と季節のお菓子」。お庭を眺めながらお茶をいただけます。

茶ろん 坪六

気軽に
楽しめる
サロン

其の3



中山道からほど近い道沿いにあります。
オープン は 2014 年の初夏。



「水と温度と量と待つ時間を変えるとおいしく飲めます。成分をいっぱい持っているので引き出すといろいろ楽しめます」。

茶ろん 坪六

東近江市宮荘町 141-1
☎ 0748 - 48 - 2067
月・火・水曜定休

五個荘地区の中山道近くにある古民家が、ギャラリー・カフェに生まれ変わりました。元は店主の坪田操さんの嫁ぎ先で、お米屋さんでした。地域のイベント時は家を開放し、作品の展示やお茶を出したりしており、そのときのお客さんに「この空間いいね」と言われ「色々な人が集える場所になりたい」と思うようになりました。

準備をする中で、自信をつけようと日本茶インストラクターの資格も取得し、茶道も10年続

question

東近江のおすすめはどこ？

太郎坊さんかな。本殿までの長い階段や大きな夫婦岩。折々に歩いてきて、それぞれにいい思い出になりました。



お茶のおいしさを引き出すには、まずは、「60℃」のお湯で淹れてみる。少しぬるめを感じる人もいないけれど、この温度が味を確かめるのに最適です。



お茶にあったお菓子がセットのカフェメニュー。スープを中心としたランチメニューも人気です。お肉を利用するときはお茶を仕込みを使い、柔らかくし、うま味を引き出しているそうです。



一つ一つ、違った木を使った一点ものの椅子。どの木を使用したのかわかるように札がついています。細かいところにも気配りが。

くつろぎ茶・幸

東近江市八日市町 10-4
☎ 0748 - 56 - 1068
月曜・第3火曜定休

緑茶色ののれんをくぐると、安らぎを感じる空間が広がる「くつろぎ茶・幸」。日本茶をはじめ、日本の紅茶や中国茶など「茶」の味をを楽しむことができるカフェです。店主の前田美左恵さんは、以前からお茶好きだったことがカフェを始めたきっかけだと話してくださいました。いざ始めようと思ったとき、お茶のことをあまり知らないことに気づき、茶の知識を深めるため、日本茶のインストラクターの資格を取得したのでそ

う。前田さんに、おいしいお茶の飲み方を聞くと、「お茶にも個性があり、その個性を知ること」だそうです。お茶の個性を知ると、それにあつた湯の温度や蒸らす時間かわかり、それがおいしさを引き出すことにつながるとおっしゃいます。

question

東近江のおすすめはどこ？

太郎坊さんを下から上っていき、頂上から見た景色。



西市辺裸まつり

午後6時、徐々に賑わう境内。地元の方、外国人、長年通っている「ファン」の姿が見える。気がつけば100人を超えているであろう見物人。見物位置を確保するのも大変である。周りには町内の重鎮の方々が袴姿で構える。午後7時頃、主役である若衆が羽織袴姿で登場し、「酒式」と呼ばれる伝統的な宴会が繰り広げられる。粛々と行われる儀式。時折大きな声で「酒の爛」と発せられるたび、周囲に緊張が走る。

「バン、バン、バン」

突然若者の一人が畳を強く叩く。会場の緊張が最高潮に達す。同時に明かりが消え、暗闇の中で太鼓が響き渡る。「ダンダンダンダン」

若衆は一斉にふんどし姿となり、暗闇の中で「チョウチャイ、チョウチャイ」と独特の掛け声を発し、互いの上に登り合い、3mの高さの梁にくくりつけられたエゴノキに餅を付けた「マ

ユ玉」を奪い合う。緊張が漂っていた会場からは歓声や悲鳴、シャッター音が飛び交う。その場にいたものすべてが寒さを忘れ、体から湯気を出すふんどし姿の若衆に釘付けになる。



伝統を守り 裸でぶつかる

1月11日夜、西市^{にしちのべ}にある法徳寺で裸まつりが開催された。このまつりは平安後期、鎌倉時代から伝わるとされる伝統行事。滋賀県選択無形民俗文化財、東近江市指定無形民俗文化財にもなっており、法徳寺薬師堂とそのむかいの若宮神社で行われる宮座行

事の一つである。ふんどし姿の集落の若者が3mの高さの梁にくくりつけられた「マユ玉」を奪い勝ち取った者はその年の良縁に恵まれるとされている。

今回も仲間の肩に乗り梁によじ登ろうとしたり、それを床に引きずり落としたりといった激しい攻防が10分ほど繰り広げられ、地元の会社員の森塚真さんが勝ち取った。「今年こそ取ろうと思っていた。幸せな年にしたい。取ったマユ玉は近所や競り合った仲間にも配り、幸せを分けあいたい」と笑顔で話してくれた。

ふんどし姿でマユ玉をとりあう若衆。周りを囲む町内の重鎮、かつての若衆。そして、見守る見物人。伝統が受け継がれる瞬間がここにあった。

西市辺裸まつり

西市辺の法徳寺薬師堂（市辺駅から南東へ徒歩15分）で1月第2日曜に行われる。

西市辺裸まつり保存会

代表 中村さん（☎0748-22-6390）



『ポケットの本』と名づけられた布絵本は、まじみちおさんの詩『ポケットのうた』から生まれたもの。女の子、犬、布絵本のなかの登場人物はみんな大事なポケットを持っていきます。そのポケットをのぞくと、すてきな宝物があふれてきます。華子さん自身、幼い頃に石などきれいなものをみつけると何でもポケットの中に入れてしまうくせがあったそうです。絵本で遊びながら、ひもの結び方やボタンの留め方など、いろんな体験ができる工夫もされています。

「捨てる前に、何か役立ててみよう」。捨てられる寸前だった端切れを、独特の形を活かす絵本にしたり、切り取った後の布を木の枝に見立てたり、擦り切れた布も、使える部分に刺繍をほどこして、繕って。華子さんの手にかかればどんなものでも、素敵に生まれ変わります。布絵本や布おもちゃの材料には、着古した子ども服たちが大活躍しています。



大きな犬を散歩させるおじいさん。もらった端切れの独特の形を活かして生まれた絵本。



ポケットの中からはビスケットが！ズボン部分はお孫さんの着古した服を活かしています。

「子どものおもちゃには、どこかに遊びがないと」と仰る華子さん。そのルーツにあったのは幼い頃親しんだ雑誌「コードモノクニ」に載っていた武井武雄の絵でした。その絵は、たくさん鳥が描かれていても、ひとつとして同じものはない。何べん見ても発見があるものだったそう。華子さんの布絵本にも、ひとつひとつにハッと目をはる工夫と発見があります。

30年前、7人の孫たちのために生まれた布絵本や布おもちゃたち。今ではそれは、7人の曾孫たちの宝物になりました。曾孫たちが遊んでいると、孫が、「そういえば、あれがあったはずや」と、かつて自分が親しんだおもちゃを探すこともあるのだとか。

モノを捨てずに、よみがえらせ、丁寧に暮らすこと。「本当は捨てたいんですけどね」と笑う華子さん。受け継いでいきたい大切なことを教えていただきました。



ちくちく縫って 繕って 孫たちと楽しむ布おもちゃ

かとう はなこ
加藤 華子さん

いつも着物姿が印象的な加藤華子さん。子どもの頃を八日市や五個荘など東近江で過ごしてこられた華子さんは、大津にあった女子師範学校を卒業後、建部と八日市の小学校等で4年間教鞭をとられました。長女の出産を機に退職され、3人の子どもたちを育てる中、革細工や木彫りなど様々なことを嗜んでこられました。

ある時、志村ふくみさんの本の中で出会ったのは『60歳になったら、今までしたこと全部捨ててしまいなさい』という言葉。それに感銘を受け華子さんは「もし、今まで楽しんできたものを捨てたら、私に何が残るだろう」と考えました。そして、ふとひらめいたのが、『孫とともに遊ぶためのおもちゃ作り』でした。細部まで丁寧に、遊び心たっぷりに作られた布おもちゃや、布絵本。小さな子どもたちとの遊びの中で、不思議なほどアイデアが次々とうかび、数々の作品が生まれました。

question 東近江のおすすめはどこ？

仲右衛門さんの公園。幼い頃よく遊びにいった思い出の場所のひとつです。五個荘の川並地区、織山の山麓（結神社側）に昭和初期造られた公園で、当時は全国各地を訪れた当主（塚本仲右衛門）が心にとどめた名所・名園がミニチュアで造成されていました。（現在は「紅葉公園」として、紅葉や自然散策を楽しめる場所になっています）





親として、この子と向き合わなければならないと
気づいたその一週間後に仕事を辞めました。

西村 静恵さん

森田…私が皆さんの年の頃には、田舎は三、四世代同居が当たり前で、子守りは年寄りが担ってくれ、何かあれば経験ゆたかな者たちがアドバイスしてくれたのですが、楽な反面、思い通りに自分の子育てができない悩みもありました。それでは、今の人生を選ばれた背景をもう少し詳しく教えて下さい。

西村(静)…私には7歳と3歳の子どもがいるのですが、上の子を妊娠して1歳になるまでは、保育園に預けて働いていました。朝6時半くらいには出かけて夜8時過ぎまで働く生活の中で、子どもを大人のリズムで動かしてしまっていました。仕事の疲れを子どもにネグレクト(無関心)という形でぶつけてしまってもいました。これまでの人生は、空気を讀んだり人の顔を伺うことが多くて、自分の本音を出すことはありませんでした。そのストレスが子どもに向かっていたのですが、もとをたざれば、親に対してもっと自分をわかってほしいという気持ちがあったと思います。それがあの日、保育園に向かう車の中で、子

どもが自分の頭をずっと叩き続けて止めてもやめない姿を見て、気づかせてもらったのが、私もこの子の親なんだということだったんです。私は親として、この子と向き合わなければならないと気づいたその1週間後に仕事を辞めて、専業主婦になりました。何かあるたび、あの時の気持ちに立ち返り、自分の気持ちを大事にしながら毎日を生きています。

ベン…私はアメリカ出身です。1人目の子どもは、朝比奈先生(助産院)のところで、幸せなお産をすることができました。妻と子どもをケアするために、休みを取ろうと会社交渉すると、休みは2日間しか取れないと言われました。調べたところ、実はいろいろ制度があるっていうことに気がきました。その時は悩んで結局休みを取らなかったんだけど、今回2人目で長女もいたので、男性でも1年間育児休業がとれる制度を活用しようとして、会社と話し合いました。自分が家族を幸せにできなきゃ、幸せに働けない。幸せに働けないと、いい仕事ができないということ



子育て いろいろあっていいよね

子育て真っ最中の5人の方に、子どものこと、自分のこと、色々お話を伺いました。

「命を大切にそだてるまち東近江 幸せを支える仕組み」2014年12月20日開催(会場:てんびんの里文化学習センター)

■基調講演:「女性が幸せと感ずること」朝比奈順子さん(朝比奈助産院)

■パネルディスカッション「いろいろあっていいよね対談」より

森田…自己紹介をお願いいたします。

佐子…私は、八日市本町にある東近江のセレクトショップ「三方良品」でボランティアのスタッフとして働いています。

横川…能登川地区で、保育ルームわかばを始めました。今年の3月まで保育園で働いていました。夏に出産したばかりの新米ママです。

西村(宏)…蒲生地区で、自宅にて「きりり整体院」を開業して3年になります。4人の子どもの子育て中です。

ベン…今育児休業を取って、妻と一緒に下の息子の面倒をみています。普段はエンジニアの仕事をしているので、一日中子どもと接しているのが、辛かったり楽しかったりします。

西村(静)…専業主婦です。やりたいこと、必要であろうことを考えながら、産後マミーケアや青空保育「ひとつぶてんとう園」を運営しています。

パネラー

佐子 都さん(本町商店街にて三方良品をスタート。3児のお母さん)

横川 由貴さん(能登川地区にて保育ルームわかばを2014年スタート。1児のお母さん)

西村 宏美さん(蒲生長峰団地にて、きりり整体院を経営。4児のお母さん)

ボディエアー・ベンジャミンさん(2014年1月から1年間育児休業を取得。2児のお父さん)

西村 静恵さん(専業主婦をしながら、近江八幡市でひとつぶてんとう園を運営。2児のお母さん)

コーディネーター

森田初枝さん(蒲生地区まちづくり協議会)



子どもたちには「何でもやってみ」と言っていたのに、自分では何もやってないことに気がつき、変わらなくちゃって。

西村宏美さん

整体院の中でそれらを活かせるように、講座などを開いてきました。3年たった今、少しずつ人の輪がつながりかけているのを感じます。

横川…大学を出てから、無我夢中で働いていたので、自分のために時間をかけることができなくて、結婚してから子どもを欲しいと思いつつも2回の流産を経験しました。この仕事の準備をはじめたとき、3回目の妊娠がわかり、無事出産することができました。一時預かりをする保育ルームを始めた理由は、幼稚園で6年保育園で2年働いた経験が大きくて、お母さんがどうしても必要なく、きに子どもを預けられる場所が周りになく、保護者の方からもそういった声を聞いていて、子育てをしんどいと思わずに、みんなが助けられる場があれば良かったからです。自宅の一室で保育ルームを始めた理由は、初めての場所に来た子どもが不安にならないように、お友達の家に遊びに行くような感覚で来てもらえる場所を作りたいと思った

からでした。始めようと思ったときには妊娠はわかっていなかったのですが、いつか自分が子育てをする時には、子どもの成長を近くで見たいと思っていました。

佐子…私も皆さんと同じで、3歳までは自分で育てたいという気持ちがありました。育てていくにつれて、社会と繋がっていないなど感じるようになりました。早くに結婚したので、周りの友達はまだ遊んでいるのに、わたしは子どもがいるから帰らなアカンということがあって。でも、子どもはわたしのことが100%大好きで。なのに、こんなことを感じてしまう自分が嫌で。わたしはママ友づきあいがすごく苦手で、団体でしゃべっているところを見るだけで、プレッシャーになるくらい自分が追い込まれていて。自分が落ち込んでいるのを見ると、子どもまで落ち込んでしまうという悪循環が続いていました。外で働きたいと思っていたけど、子どもがいるからどうしようと思っていたら、この7月に「三方良品」をオープンす

自分が家族を幸せにできなきゃ、幸せに働けない。幸せに働けないと、いい仕事ができない。



ボディエアー・ベンジャミンさん

話して、理解を得られました。アメリカやヨーロッパにもこんな制度はない。先端をいくドイツでも3ヶ月くらいです。親と離れて暮らす僕たちにとって、素晴らしい制度です。でもこの制度があるということを知っている。安心して働ける環境があれば、皆いい仕事ができる。制度が広まり、効率を重視した考えが浸透していけばいいですね。

森田…参考までに、今回調べたところ、日本の男性の育児休業の取得というのは2.6%くらいで、期間は2週間くらいが6割だそうです。ベンジャミンさんは、どうしてこの制度を知られたんですか？

ベン…公務員の友達に教えてもらいました。でも、人事の人にきいても教えてくれないし、自分で調べないといけない。出産の時もそうで、病院で3時間待ちで、診療は3分くらいで、アカンやろこれは、と。ネットで調べ、自然なお産を実践している助産師の朝比奈先生に出会えたことが家族

の転機になりました。

西村宏…私はずっと専業主婦でしたが、10年くらい全体の仕事をしたいと思っていたんです。3番目の子が生まれて三ヶ月くらいか、子どもたちには「何でもやってみ」と言っていたのに、自分では何もやってないことに気がついて。わたしやりたいことやらなくっちゃ、変わっていかなくちゃと、一歩踏み出して資格を取りに行き、「きりり整体院」をオープンしました。自宅で仕事をしようとした理由は、子どもたちを家で「お帰り」と言って迎えてあげたかったからです。専業主婦のとき、子育てでイライラしたりすることもあり、そんな時にちよつと自分がリラックスする場があればいいなと思っていました。この整体院には子どもといっしょに来てもらって、ここで充電して元気になつてもらうことを望んでいます。お母さんたちと話す中で思ったことは、皆さん特技や資格を持ってもらえるのに活かす場がないのかなということです。



幸せな町づくりに必要なのは、お母さんの笑顔。そうじゃないと、やっぱり子どもも家族も笑顔になれない。

佐子都さん

さんの笑顔。そうじゃないと、やっぱり子どもも家族も笑顔になれへんし、子どもといる時間は必要やと思うけど、自分がリフレッシュできるんやったら、仕事にいつて保育園に預けたつていいと思うし、お母さんやから、奥さんやからというのを取っ払って「わたしはこう生きていきたい」というのが女の人も男の人も必要だと思います。
西村(宏)…お母さんって母、妻、社会人と色々な顔があり、小さい子がいると特に気の休まる時間がないし、一人で子育ては無理です。皆が助けて欲しい時は助けてつて言える環境が整っていればいいなと思います。病院って産んでしまったあと、何にも分からないのに放り出されてしまう状態になるので、子育てについて色々情報があると悩まずにすんだのかなと思います。
横川…娘ができてから娘を通じたお母さん同士のつながりが新鮮でした。同じ悩みを持つて、一緒なんやと安心できて。つながれる場は大切。今は待機児童の多さが問

題になっていますが、保育園や小さい園が多数あつて、0. 1. 2歳の時は小さい所に預けて、3歳以上になったら、大きい園にというような選択ができると、預ける側も働く側にもいいと思います。
森田…西村さんの「ひとつづてんとう園」では青空保育をされているんですね。
西村(静)…幼稚園、保育園を否定しませんが、それ以外の形があつてもいいかなと。親も一緒に、山や畑に行ったり冒険したりしています。お母さんが笑うと、子どもも笑う。自然の中に入ると、ものさがしに役に立たなくなるんですね。親子が対等になる。自然の中で子どもと向き合うことが、三つ目の選択肢になるといいなと思います。
森田…子どもたちが10年後も100年後もずっと笑顔でいてくれるためには、皆さん一人一人が幸せになつてもらわなくてはいいけないし、それを支えるのは、この町に住む全ての者だと思っています。この対談が幸せな町づくりのスタートになりますように。

子育てをしんどいと思わずに、みんなが助けてくれる場所があればと思って、保育ルームをはじめました。



横川由貴さん

るからお給料はでえへんけど、あんたはそこに毎日行きなさいと主人がきつかけをくれました。「三万良品」は、東近江の若い農家さんが作っている農作物や、手作りの雑貨を取り扱っているセレクトショップです。ここで扱っている農作物は無農薬で、無化学肥料か、肥料を与えていても低化学肥料です。誰が、どういう思いで作っているのかかわかります。雑貨も、お母さんたちが作っています。わたしと同じように社会とのつながりが持てていないんじゃないかという気持ちを持った方も、作った雑貨を手にと取ってもらうことで、また社会とのつながりを持って、皆が笑顔になつてもらえるようにと活動しています。月に1回開催する「やつなぎマルシェ」は、雑貨の作家さんや農家さんに対面販売してもらおうと始めました。人の輪がどんどん繋がつて行くような場となり、みんなが笑顔になれるまちづくりの一端を担えればと願っています。
森田…皆が幸せになるためには、包容力の

ある町、やさしい町になつてほしいと思うのですが、どうしていったらいいと思われませんか？
西村(静)…いろんな情報が溢れる中で、必要なのは選択する力だと思ふんですね。こう言ったらどう思われるだろうとか、そういうことを基準に選んでしまつてることがとても多いような気がして。子育て支援とかいろいろあつても、選べる力がなければ意味がないなとわたしは思います。
ベン…妻が育児で24時間長女と一緒にいるようになった時、朝は娘と一緒にいて妻を手伝いながら、フレックス制度という形で出社時間をずらしました。そうしたら、周囲の理解を得られなかった。日本には「十人十色」という素晴らしい言葉があるけれど、人間だから色々な生き方がある。ちがう価値観や仕事のやり方を皆が認められると、うまくいくんじゃないかと思う。
佐子…幸せな町づくりに必要なのは、お母

つどいの広場

えがお 誰もが笑顔になれる場所

蒲生長峰団地内に、子育て中のお母さんが集まる場所「つどいの広場『えがお』」があります。「えがお」では、「ここに来られる人すべての人が笑顔に」をモットーに、お母さんも子どもも楽しめる場を作っています。季節のイベントやベビーマッサージ、料理教室、子育て勉強会などを開催しています。「長峰団地は、ほかの町から来られた方が多く、そういつたお母さんたちが孤立せず、つながりあえる場にしたい」と、代表の西川さん。保護者の方からも、「引越してきたばかりで不安だったが、ここで知り合いになり、町で出会っても声をかけてもらえたことや友達になれたことがうれしかった」という声も聞かれました。子育て中の不安や疲れは誰もが感じること。だからこそ、「一人じゃない」と思える場所が必要なのかもしれません。「えがお」は、いつでも誰でも迎えてくれる、そんな安心感を与えてくれます。



普段は、5組から15組ぐらいの親子が一緒に遊んでいます。少人数だからこそ、ゆったり過ごすことができます。



地元の食材を使った月2回のランチの日は、大人気です。



つどいの広場 えがお

住所：東近江市蒲生堂町 328-252

☎：0748-56-1057

開催日：月、木、金 10:00～15:00

地域子育て支援拠点「つどいの広場」は、市内に5か所あり、それぞれの地域の特色に合わせて活動中です。

[東近江市 HP]

<http://www.city.higashiomi.shiga.jp/0000002895.html>

対談に登場した皆さんに会える場所

三方良品



住所：八日市本町 17-17
営業日：月、火、木、金 (9:00～13:00)
<https://www.facebook.com/sanporyouhin>

通りに面した木箱には、朝採れたばかりの新鮮な野菜がずらり。野菜たちは、地元の農家の方が無農薬や減農薬で、環境にも体にも配慮して作ったもの。この他、愛東産の天然菜種油「菜ばかり」や、地元作家の方が作られたかわいい布小物、手作りのスウィーツもあります。「今までにない、地域密着型のセレクトショップです。ぜひ東近江のいいものを皆さんに手にとっていただきたい」と佐子さん。東近江の素敵があふれるお店です。

ぐるりの家 (朝比奈助産院)

- 産後マミーケア。緑町診療所での出産、自宅出産、母乳育児サポート等。
- 住所：東近江市八日市緑町 17-5 ☎ 0748-23-6276

保育ルーム わかば

- 能登川駅から車で5分。5人以下の少人数保育、一時保育(時間預かり)。
- <http://hoikuroomwakaba.jp> ☎ 090-5678-2423 (平日 8:00～20:00)

きらり整体院

- 産後骨盤矯正、一般整体等。お子様連れ歓迎。
- <http://ameblo.jp/kirariseitai/> 住所：東近江市宮川町 244-101 ☎ 0748-26-2933

ひとつぶてんとう園

- 「おむすびとけがは自分持ち」。近江八幡市北之庄沢や西の湖等をフィールドとした青空保育活動。
- <http://hitoten.net> ☎ 090-8208-0423 (西村静恵)

毎日が冒険

背の高い木々が涼しい木陰を作る
大水児童公園。ゆるやかな小川の中
には飛び石があり、木にはタイヤの
ブランコが。手作りの木の遊具が遊
び心をくすぐるこの公園が、「八日市
☆冒険遊び場」の活動場所です。

今から8年ほど前、子供たちが外
遊びする姿が少なくなったことに
気づいた大人たちが「じゃあ、ゲ
ームより面白いワクワクする遊び
場を作ってやろう」と、近くにあ
ったこの公園の改造を始めまし
た。当時はツツジばかりで見通し
の悪い場所でしたが、梅やグミ
の苗木をもらって植えたり、廃材を
譲り受けて小屋を作ったり、みんな
の手で少しずつ魅力溢れる遊び場
になっていきました。

冒険遊び場の理念は、「自分の責任

で自由に遊ぶ」ということ。「ケガと
弁当は自分持ち」です。あるものは
使い、ないものは作ってとことん遊
ぶ。最初は心配げに傍で見ていた親
たちも、だんだん離れて子どもを見
守るようになっていくそうです。こ
こに来ると、家族だけでなく、いろん
な大人や大学生たちが子どもを見てく
れるのも、大きな魅力のひとつです。
遊び場ができたばかりの頃、小学
生だった子どもたちはもう中学生
に。今では中学生たちだけでやって
きて、水遊びする姿も見られるよう
になったそう。「子どもたちが戻って
きてくれる」。代表であり設立に
関わった村山弘晃さんは、嬉しそう
に語ってくださいました。

晴れた日には公園に集まって、大

人も子どももクタクタになるまで遊
ぼう！冒険遊び場は、皆が自由にな
れる場所です。

プレーパーク

月2回（第3日曜日、第4土曜日）

0歳から100歳まで誰でも

ちびぱーく

毎週金曜日（4～12月）

乳幼児の親子対象

八日市☆冒険遊び場

☎ 090-4307-6685

（村山弘晃さん）



八日市★冒険遊び場

時間がないならつくればいい
場所がないならつくればいい
友だちがないならつくればいい



『おさとさん』とは五個荘出身の女性『塚本さと』のこと。地元の人からは親しみを込めてこのように呼ばれています。

塚本さととは「商家の女性」「女学校の創設者」として有名ですが、残された資料や逸話からは、温かな人柄や、慎ましく丁寧な暮らしぶりをうかがうことができます。

特に自ら記した『姑の餞別』という衣食住についての手引書には、くらしの知恵が具体的に書かれており、現代にも通ずる1冊です。

おさとさんから世代を超えて贈られた『姑の餞別』から、丁寧に生活することを少しでも感じ取れたらと思います。

「ていねいに生きる」を知る

おさとさん からの贈り物



Tsukamoto Sato

衣食住の心得 『姑の餞別』



『姑の餞別』は、塚本さと48歳のときに、主婦としての経験などを自らまとめ、書き記したものだ。早くに母を亡くしたさとは、自分は教えてもらえなかったくらしの知恵を将来の嫁のために残したいと筆をとりました。昭和六年には淡海高等学校から発行され、教え子たちにも広く読まれました。

おさとさんから教わる ふろふくの味② だるま汁

材料 胡麻3勺、辛味噌30勺（白粥或いは少々入れて磨る）、水1升、茄子5ツ
● 胡麻を煎って擂鉢でよくする。その中へ味噌を加える。よくすった所へ水をとかし鍋に入れてたく。

● 茄子は皮をむき半分又は適当（な大きさに切り、（皮目の方に）縦横に切り目を入れて煮る。その形が亀に似ているので泥亀という。

「だるま」とは？

由来は泥の中に亀の甲羅がのぞいているように見えることから。塚本家で夏ばて防止に作られました。近江商人博物館にはサンプルや『姑の餞別』刊本の現物もあり、泥亀汁のページを見ることができます。



おさとさんから教わる ふろふくの味① かきもち

材料 餅米7、8日、10日ばかり、水にひたし置き、4升を1臼分とする。

白米を水にひたしたら干のよい米は1升が1升5合になる。干の悪いのは1升が1升4合になる。

1臼に生豆の粉（大豆を乾燥させて粉にしたもの）凡そ1勺5才、水あめ5勺、塩8勺入れる

●（蒸して）搗きあげて重（熏箱）と思われるに入れ、あくる日の夕方に粉をはらい、上下にかえて元のように重に入れ、3、4日して大きく割る、5、6日より小さくして干す。1臼のままを匏（かはん）にてつく時もあり、（かんなの方が）早いけれど、手切の方が風味よしという。

種類 ※1臼に対して以下の分量

白豆入：豆1升を入れる時には、餅米少し減らしてよし。前日にいりてひきわる。

黒豆は5合：2、3日前に蒸して干し置



献上品のかきもちを焼く様子



【単位参考】

1升=10合=約1.8ℓ
1合=10勺
1勺=10才
1才=約1.8シℓ（ひとつまみ）
1斤=160匁=約600g
1匁=3.75g

※ 文、朱はお金の単位



「ハルカ・エイティ」
姫野カオルコ（文藝春秋）

1902年、滋賀県のとある町で生まれたハルカは、何事も楽しむことのできる前向きな性格です。父親が校長先生であることから、学校で注目されることが負担でしたが、やがて自身も小学校教師となります。20歳のころに見合い結婚をして夫の実家がある大阪で暮らしはじめますが、軍人である夫は出征し、街には戦争の影が…。戦前・戦中・戦後という激動の時代をたくましく生き抜くハルカの人生を追います。著者自身が学生時代に過ごした八日市と思われる町が舞台の一つとして描かれています。（山下）

読んで 出会う 東近江

図書館でお読みください



「冬虫夏草」
梨木香歩（新潮社）

ほんの百年すこしまえのはなし、主人公は京都の疏水ちかくに住む文士・綿貫征四郎。前作『家守綺譚』ではサルスベリに惚れられたり亡友の幽霊と交遊したりといった毎日を送っていた彼が、ある日能登川駅に降り立ちます。頼れる愛犬・ゴローがどうもこのあたりにいるらしいと聞きつけて。愛知川をさかのぼり、河辺の社を詣で、向かうは永源寺の更に奥。綿貫は鈴鹿の山深くで、なにを見出すのでしょうか。（前田）

おさとさんに出会える場所



塚本さとの本宅
近江商人記念館 八年庵
東近江市五個荘川並町 630
休館日：不定休
開館時間：9:30 ~ 17:00
入館料：中学生以上 500 円
小学生以下無料



「てんびんおかき」買えます
ごきげん館
東近江市五個荘塚本町 279
（東近江市ぶらざ三方よし内）
☎ 0748 - 48 - 6678
休館日：月曜日（祝日の場合翌日）
開館時間：9:30 ~ 16:30



商家の女性も紹介しています
東近江市近江商人博物館
東近江市五個荘竜田町 583
☎ 0748 - 48 - 7101
休館日：月曜日（祝日を除く）、
祝日の翌日、年末年始
開館時間：9:30 ~ 17:00（入館は 16:30 まで）
入館料：大人 200 円、小中学生 100 円

商家の女性 塚本さと
塚本さととは、天保14年（1843）、近江国神崎郡川並村（東近江市五個荘川並町）の近江商人初代塚本定右衛門の末娘として生まれました。近江商人の妻となり、五男三女の母として、生涯を商家の女性として生きた人です。
その商家の女性が、大正8年（1919）、7歳にして、私財を投じて北五個荘村竜田（東近江市五個荘竜田町）に、高等普通教育を行う女学校、私立淡海女子実務

学校を創立しました。当時「女に学問はいらぬもの、詩を作るより田作れ」（塚本家譜さと子伝）といった思想が一般的でしたが、これからの新しい時代を生きる女性には教育は必須と考えてのことでした。初代校長となり、女学生たちに「おばあさま」と親しまれながら、昭和3年（1928）1月4日、その生涯を閉じます。



淡海女子実務学校校舎

働き者のおくさま
四男三女の母であるさととは、乳母が不足したときには一人を背負い、一人の手を引いて家事をこなしました。初めて訪れた人に女中さんと同様に扱われるくらい、一緒になって働いていたといえます。また、しつけに厳格で、塚本家には多くの女の子が行儀見習いに来ていました。
とても器用
物を大切に「始末」すること、くらしの楽しみとしても行っていました。菓子箱に紙を貼って再利用するところから、手遊びの豆本や豆腐子、マッチ箱を本に見立てたものなど、木魚や焼き物の香炉まで、なんでも手作りする人でした。

おさとさんについて、いこう



「かくれ里」

白洲正子（新潮社）

古典の美を愛した随筆家・白洲正子さんは、古いものが古いままの形で遺っている近江に奥深い魅力を感じ、何度も足を運ばれました。

本書に登場する東近江の地には、「石の寺」での石馬寺をはじめ、「石をたずねて」の旅の、太郎坊、石塔寺などがあります。なかでも石塔寺の石塔は日本一の石造美術だと絶賛されています。「木地師の村」では君ヶ畑や蛭谷などの木地師集落に惟喬親王伝説や能面を訪ねられました。

東近江に息づくゆかしい魅力を再発見してみませんか。（橘）



「脊梁山脈」

乙川優三郎（新潮社）

23歳で終戦を迎え、上海から復員した信幸。復員列車で助けられた男を探して戦後の復興の中、木地師の源流をたどることになります。木地師の祖先は、はるか昔は奥永源寺にあり、やがて全国各地に広がっていったのです。

男を探して深山を巡るうちに木地師の手仕事に魅せられ、心動かされる信幸。その旅は信幸が終戦後生きなおすことでもありました。

混沌とした時代にあっても、登場人物の気高く凛とした生き様は、木地師の作品と同様に、日本の美を見るようです。（山梔）



「歴史を紀行する」

司馬遼太郎（文藝春秋）

滋賀県というと連想されるのが、全国を舞台に活躍した近江商人。彼らを生み出した近江の風土とはどのようなものだったのでしょうか。

作家司馬遼太郎が、浅井長政や蒲生氏郷など歴史上の名士に思いを馳せながら、近江商人のふるさと五個荘地区、そして蒲生地区の石塔寺を訪ねます。この地に商人的素質をもつ人が多く現れたその理由とは。

この本では、近江以外にも高知など様々な場所の紀行文が記されています。司馬遼太郎と一緒に、歴史散歩を楽しみませんか？（松浦）



「夕げの匂い オレンジ色の空—近江の日々を描いて—」

福山聖子（工房森のしずく）

細い路地や古い駅舎、昔ながらの商店、畦道とそこに咲く花…。滋賀県内を歩けば出会える何気ない景色やそこにある暮らしの風景を、丁寧なスケッチとぬくもりのあることばで描いた画文集。白黒のスケッチなのに四季の彩りが感じられます。東近江からも八日市のお店や五個荘に残る土間などが紹介されています。その中の一編「まちの食堂」を締めくくる「いずれ消えそうなものが愛おしい」ということばが、著者のまなざしの温かさを現しているようです。（根岸）



地域の結婚・子育て・魅力発信事業

それから

第2号
2015年3月31日発行

編集／そこら編集委員会
発行／NPO法人まちづくりネット東近江

[お問い合わせ]

NPO法人 まちづくりネット東近江
〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町 10 番 5 号
☎ 0748-24-5571 E-mail: info@e-ohminet.com

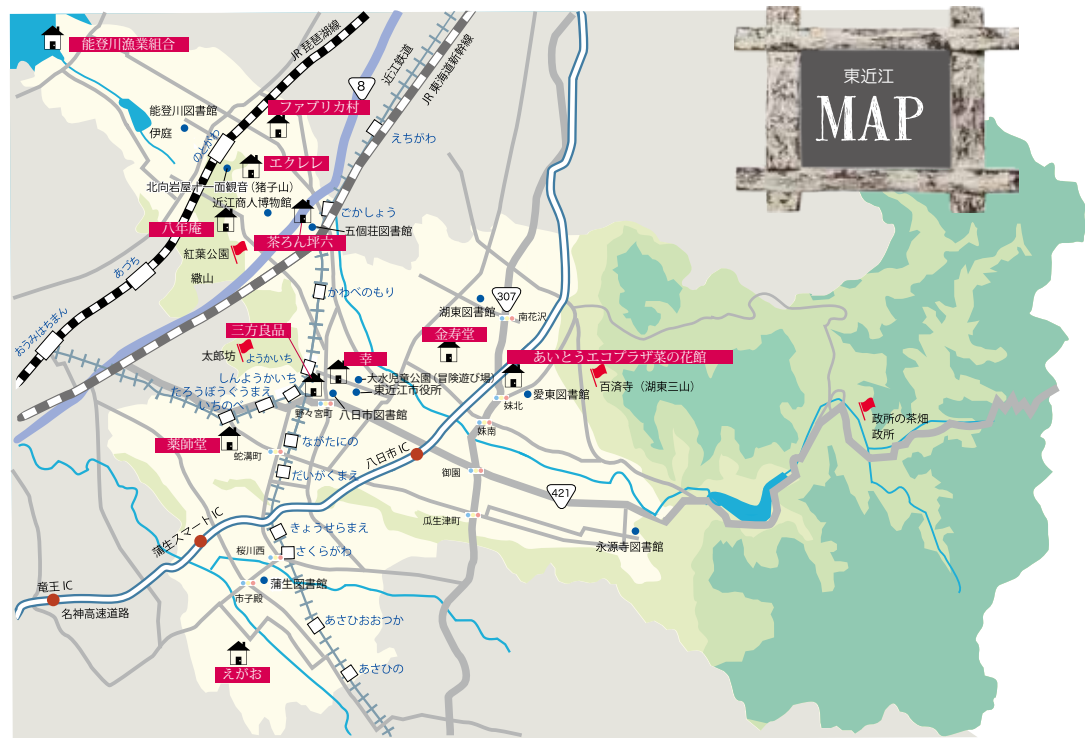
[協力]

東近江市立八日市図書館
東近江市能登川博物館
東近江市近江商人博物館
山本一博さん
取材に協力いただいた皆様

〔編集委員〕
大林 映利佳
狩野 桃江
谷 佑一郎
松浦 純子
森下 瑠美
山梶 瑞穂
山口 美知子
(五十音順)



この用紙は「びわ湖の森を元気にする」
kikitoペーパーを使用しています。



紹介させていただいたお店・施設



みなさんのおすすめスポット

編集後記

- 普通に過ごしていたら知らなかった、場所やひとやもの。少し近づいて、身近に感じることができるようになりました。(K)
- 「そこら」の名の通り、周りを見渡すとステキな場所や人に出会うことができる、そんなまちが本当に素晴らしいと思います。ご協力いただきましたみなさまありがとうございます。(M)
- 地理や歴史を知ると、町を見る目が変わり、面白いですね。(M)
- 取材を通して、今まで気になっていた場所に初めて足を踏み入れることができました！これからも、地域の「ええとこ」を探しに出かけていきたいと思います。(O)
- 東近江市のそこら。結構ワクワクします。(T)
- 能登川の漁港の猫のまるまる太っていること！毎日、漁のおこぼれをもらっているでしょう。(Y)
- まだまだ紹介しきれない魅力いっぱいの東近江市。今後もどうぞ期待！(Y)

そこら

第2号

2015年3月31日発行

編集／そこら編集委員会

発行／NPO法人まちづくりネット東近江

